

■ **市川造船所の跡地を巡る**

そんな四年越しの夢が実現、総勢三十四人が二月十八日に大湊を訪れました。きっかけは、吉岡さんへの年賀状でした。計画がある事をお伝えすると、それなら伊藤さんに連絡を取るようにと勧められ、伊藤さんに資料を頂いたり、駐車場を手配してもらったり、お世話になりました。

当日は、約束の時間に到着できるか心配していたものの、余裕で大湊の市川造船所の跡地に着きました。今回の旅行のために奔走して下さった鳥羽商船高等専門学校名誉教授の伊藤さんと市川造船所元職員の中村さんが門を開けて待っていてくれました。伊藤さんは、平成二十六年に伊勢市に寄贈された「旧市川造船所資料」(約6万点)の整理に携わった方です。大型のクレーンや進水用のレールなどが残る跡地は中村さんに案内してもらいましたが、その規模の大きさを巨大な船が造られていたことが想像出来ました。

元禄時代から四百年にわたって船を造り続けてきた市川造船所では、明治期から洋式船の建造を始め、白瀬中尉が南極探検に使用した開南

■ **四年前の交流**

伊勢大湊から三人のお客様が掛塚を訪れたのは、もう四年以上前のこととなります。平成三十年十二月、吉岡さん、伊藤さん、強力さんの三人が歴史文書館を訪ねてこられ、その後貴船神社、旧津倉邸を見学されました。大湊は造船の町。元禄時代創業の「市川造船所」が手掛けた「安全丸」(川島平次郎の持船)の設計図奉納額をご覧になり、また、拝殿に置かれていたブリガンチ型の帆船「敬神丸」や神輿に据えられた「フタナリ船」の模型にも大いに関心を示されました。三人の訪問を紹介した当時の広報紙(「12号」)には、「いつか伊勢大湊を訪問し、親交を深めることができたら」とありますが、今回それが実現したのです。

■ **これから**

大湊での充実した交流の時間を過ごした後は、伊勢神宮内宮にお参りをし、おはらい町で買い物を楽しみました。五十鈴川に架かる宇治橋も大湊の船大工が二十年ごとの遷宮の時に架け替えているのだそうです。この日は、多くの参拝者が訪れていて、おはらい町も大変な賑わいとなっていました。大湊の人たちの温かさに触れ、伊勢の神様のご加護を感じました。これからも更なる交流が続けられたらと切に願います。

丸など、たくさん船を造ってきました。また、強力造船所では、ピキ二環礁で被曝した焼津の第五福竜丸を、東京水産大学の実習船「はやぶさ丸」に改造しています。その時、工場長として陣頭指揮にあたったのが、今回お世話を頂いた吉岡さんでした。

■ **大湊の歴史に触れる**

造船跡地からは、道路沿いの樹木が生い茂っていて大型バスが通れないため、次の大湊町民会館まで歩いていく計画になっていました。ところが、当日にはすっかり剪定されていて、バスによる通行が可能となっていました。これも吉岡さんをはじめ地元の方々のおかげのお心遣いでした。大湊町民会館には、織田信長の朱印状や安政の大地震で損壊した波除堤とその修復図面等、貴重な古文書や絵図が用意されていて、未来つくり委員会の会長さんから丁寧な説明を受けました。

町民会館の隣には日保見(ひほみ)神社があり、その社前には、天然記念物「弥栄の松」が茂り、燈籠には奉納者である「釘問屋」の文字が刻まれ、大湊には釘を作る鍛冶屋が多かったことを裏付けています。神社の裏は波除堤が続き、そこに「義良(のりよし)親王御乗船地」の石碑が建っています。掛塚の御公卿囃子の言い伝えと結びつく史跡に、松山保存会長は喜びで写真に納まっています。



大湊波除堤から伊勢湾口、渥美半島を望む



大湊町民会館で、古文書の説明を伺う



市川造船所跡地にある進水用のレール



今回大変お世話になった吉岡さんご紹介

名倉慎一郎



5月27日 土曜日

河川敷で土木作業車の展示イベント開催！
天竜川に親しむ契機にしよう！

江戸時代から明治にかけて廻船でにぎわった掛塚は、堤防の西側が河岸となっていて、川下げされた筏が着き、岸辺の木挽き小屋で板や角材に製材され、多くの人たちが立ち働いていたことが想像されます。しかし、昭和2年から始まった天竜川の改修工事により、河岸の跡はまったくなくなってしまいました。また、大正8年に設立された「福長飛行機研究所」(のちに「福長飛行機株式会社」)は、河川敷の川原を滑走路として使用していましたが、昭和3年に閉鎖し、浜松へ移転していきました。私たちの子どもの頃は、天竜川の河川敷は絶好の遊び場になっていました。釣りや水遊びだけでなく、堤防や河川敷に生えている草や木が遊びの材料となりました。しかし、今や河川敷は危険地帯とみなされ、子どもたちはほとんど立ち入ることがありません。

河川敷では、掛塚の繁栄を物語る跡が消え、子どもたちの遊び場も、雑草に覆われてしまっています。しかし、最近この河川敷で工事が行われています。これは、天竜川に堆積した砂利を運搬するための道路と河川管理のための道路を建設しているそうですが、それに合わせて、駐車ができる広場が整備されるということです。

更に、その場所でダンプカーなどが集まるイベントが開催されることになりました。今、海岸では防波堤の建設、天竜川では河川敷にたまった土砂の搬出などの防災工事が行われていますが、これ等の土木作業に使われている車両がここに集結します。ダンプカーのほか、ショベルカーやパッカー車、給水車などで、試乗できる車もあります。このほか、天竜川改修の歴史や天竜川の魚類などのパネル展示も行われ、キッチンカーも出店する予定です。

津波や洪水から町を守るための大切な事業が、どんなふうに行われるのか、子供たちに体験してもらうことは大いに意義のあることです。また、掛塚地域には、廻船業でにぎわった当時の面影を残す建物や街並みが残っていますが、このイベントをきっかけに、河岸や飛行場のあった天竜川の川辺にも目が向けられ、私たち住民が水辺に親しむ契機となれば素晴らしいと思います。

このイベントは、5月27日午前9時から正午まで、半日間の開催ですが、私たち「みんなと倶楽部・掛塚」では、これとタイアップして旧津倉邸の公開見学会を、27・28の両日行い、まち歩きなども計画していると思っています。多くの方々のご参加をお待ちしています。



工事の様子



工事の様子



名倉慎一郎



会員・賛助会員・ボランティア会員募集！

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。

- 正会員** 運営・企画に携わっていただけます。年会費 **3,000円** をお願いします。
- 賛助会員** 会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。1口 **1,000円** の年会費となります。
- ボランティア会員** 会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。**会費はありません。** 小・中・高校生の方も気軽に参加してください。

振込先はこちら

静岡銀行 竜洋支店 普通預金
口座番号 0418125
名義：みんなと倶楽部掛塚 代表 池田藤平

ゆうちょ銀行 店番 238 普通預金
口座番号 5027208
名義：みんなと倶楽部・掛塚



お問い合わせ

ご興味のある方は下記までご連絡ください！
☎ 0538-66-4775 (名倉)

みんなと倶楽部
My hometown Kaketsuka



- 会長 池田藤平
- 事務局 名倉慎一郎、大沢利行、斉藤朋之
- 編集 轟田茂巳、山内紀子、鈴木小百合



補助してもらいながら練習です



昔を思い出しながら竹馬づくり



竹馬に挑戦!

竹馬だつて正月の遊び。まずは、大人が子供の前に立ち、持ち手を支えながら竹馬を一步一步。「もう少し前に倒すようにしないとダメだよ」。私もやってみましたが、なかなかすぐには出来ません。それでも、子供たちの覚えは早いもの。何度も何度も失敗を重ねながら、気づいた時には一人で歩けるようになっていてはありませんか!

一緒に練習!



すぐに乗れる様になりました



飛べ!紙飛行機



高い場所が上がって紙飛行機を飛ばし、下に降りて紙飛行機を拾い、また上がって飛ばしを繰り返すうちに、どんどん上達。手を離れた紙飛行機は真つ直ぐに飛んだり、クルクルと回ったり。力いっぱい遠くへ投げるのではなく、風に乗せて飛ばす力加減が分かって来たみたい。
そこにいたのは、かつて天竜川河川敷で国産初の旅客機を造った福長兄弟の子孫にあたる福長昇さん。去年(2022)は福長10号が掛塚の空を飛んでから百年目にあたる記念の年だったので。紙飛行機を飛ばす子供たちの笑顔に、福長兄弟の「空を飛ぶ夢」を見たような気がしました。



掛塚には昔から独特な独楽がありました。明治から昭和四十年頃まで、それを造っていたのは砂町にあった「くりものや」の須田さん。今回の「もちつき大会」に併せ、須田修司さんに手作りの独楽を持つて来ていただきました。
しかし、独楽まわしをしたことがない子供たちだけでなく、独楽まわしをしたことがある大人たちだって、久しぶりの独楽まわしは簡単にはできません。
何度も何度も失敗を繰り返して、回った時には子供みたいに大はしゃぎでした。

お餅つき

1月21日(日) 10時~12時

私たち「みんなと倶楽部 掛塚」主催の新年最初のイベント「もちつき大会」を一月二十一日(土)、旧廻船問屋・津倉家の庭に木白に椅子やテーブルなどを準備して開催しました。
「白目の餅つきが始まったのは午前十時少し前。年記者が多い私たちが「みんなと倶楽部 掛塚」会員でも、白と杵を使つての餅つきは久しぶり。糯米が蒸し上がるまでに白と杵とを洗い、お湯につけておきます。そして、餅を返す時に使う手水も用意。次第に餅つきの雰囲気盛り上がって来ました。
蒸した糯米を白に入れ、杵を振り上げてつく前に、先ずは捏ねる作業。体重を杵に架けるようにして餅米を潰します。ただし、時間をかければ餅米が冷めてしましますので、手早く手早く。
二臼目、三臼目をつく頃には、子供たちの人数が増えて来ました。「お餅つきしたい子、集まれ!」。しかし、子供たちにとって、丸木に柄を差し込んだ横杵は重過ぎます。そこで登場したのは、丸木の中ほどが細くなり、柄がない杵。月で餅つきをしている鬼が使う杵とも言われ、「うさぎ杵」とも呼ばれているようです。
力が必要な捏ねる作業は大人がやり、捏ねが終わつたら子供たちの出番。交代交代で「うさぎ杵」を振り上げて、ペタンコトペタンコ。「卯年」にぴったりの楽しい餅つき風景でした。
つき上がった餅は、のし餅ではなく、水の中で千切つて水餅に。甘く茹でた小豆、きな粉としょうゆ味の大根おろしとを用意しましたので、それぞれ好きな味で。
旧津倉家の庭にはテーブルと椅子を一ヶ所に固まらないように並べましたので、あつちの席にもこつちの席にも、家族同士、仲間同士で自由気ままに腰かけて、つきたての柔らかい餅を食べれば、美味しくはないがありません。
地域の大人と次世代を担う子供たちが一緒に遊んだ新年「もちつき大会」。どちらも笑顔いっぱいの一歩一歩。
来年もぜひ、開催したいと思います。



みんな悪戦苦闘しながら一生懸命につきました!

つきたてのお餅は美味かった!

